

英語教育・国際理解

		評価項目	評価基準	1学期			2学期		
				評価結果	評価	考察及び改善策	評価結果	評価	考察及び改善策
チャレンジ1	成果目標	英語を使ってコミュニケーションをしたり、外国のことを学んだりすることが好きと答える児童を増やす。	児童・保護者アンケートで肯定的評価 A：80％以上 C：60未満 （児童アンケート） 「英語を話したり、外国のことを学んだりすることは楽しいですか。」 1学期：3～6年 2学期：1～6年 （保護者アンケート） 「お子さんは、外国のことに興味をもち、国際科の学習に進んで取り組んでいますか。」	児童 86.2％ 保護者 73.1％	B	・保護者の肯定的評価は昨年度より上がっている。児童も3％下がったが例年並みである。児童への国際科への関心については、学級担任の先生が少しでも国際科の授業に関わったり、英語を使っている児童を褒めたりすることで、より高まると考えられる。専科に任せきりにせず、今後も継続して担任も授業へ意識を向けていく必要がある。 ・児童よりも保護者の評価が低いので、今後も継続して保護者へのアピールが必要である。 ・2学期は低学年も国際科が始まるので、楽しく学べるような活動を工夫していく。	児童 88.5％ 保護者 67.9％	B	・児童については昨年度後期並みであるが、1学期より少しポイントが上がった。保護者については昨年度よりも下がり、1学期も比較するとポイントが下がっている。児童の国際科への関心は高い一方で、保護者が少し低い傾向にある。3学期は国際交流会もあるので学年便りで是非発信をお願いしたい。
	教育活動	英語を使って楽しくコミュニケーションをとったり、外国の文化や習慣について学んだりする授業を実践する。	職員アンケートで肯定的評価 A：80％以上 C：60％未満 （職員アンケート） 「児童が進んでコミュニケーションを取ろうとするような授業や外国の文化や習慣に触れるような活動を実践することができた」	職員 100％	A	・昨年度の88％より肯定的評価が上がった。 ・4年生以上は英語専科、ALTを中心として授業を進めていくことになるが、授業に直接関わらない担任との情報交換も密に行い、授業改善に生かして行く。 ・1～3年生は担任が中心となって授業を進めていくので、ALTとの打合せをしっかりと行い、楽しい授業を心掛ける。 ・個別支援や個別指導が必要な児童に関して事前に英語専科やALTに情報提供をすることで、コミュニケーション活動での大きなトラブルを回避できる。そのため、専科との情報交換も大切にする必要がある。また、学習内容によっては、支援員や学級担任のサポートが必要であるので、ずずらんや、担任との情報交換も学年かななどで実施していく。	職員 100％	A	・1学期と同様に肯定的評価が高い。 ・1学期以降の取組として4年生以上は英語専科、ALTだけでなく、授業に直接関わらない担任との情報交換も密に行い、授業改善に生かした結果と思われる。1～3年生も同様にALTとの打合せをしっかりと行い、楽しい授業を心掛けたようである。 ・個別支援や個別指導が必要な児童に関して事前に英語専科やALTに情報提供をすることが、少し不十分な場面があった？担任からも、また専科ALTからも互いに、個別に配慮が必要な児童やその対応方法を共有する必要がある。特に、不適切行動をとる児童への指導は、単純な叱責だけでは対応できない児童もいるため、その児童への配慮方法は特に九通理解を図る。
	運営活動	・保護者・地域に積極的に発信活動を行い、地域の国際科に対する意識の向上、理解の向上を図る。	職員アンケートで肯定的評価 A：90％以上 C：70％未満 （職員アンケート） 「学年便りやHPを通して、国際科や国際理解教育について、学期に1回以上、家庭、地域に発信することができたか。」	職員 80％	B	・昨年度はC評価であったがBに上がった。 ・低学年は2学期から国際科が月1回で始まるので、その時の様子をおたよりで紹介する。 ・3年生以上は、2学期の授業の中で楽しそうな活動を1回でよいので、おたよりで紹介する。 ・教頭先生が国際科の授業の様子を定期的にホームページで発信したことで、保護者・地域の国際科に対する意識・理解の向上を図ることができた。各学期ごとに全ての学年の様子を発信していただくとありがたい。	職員 85.7％	B	・昨年度後期はC評価であったが、1学期と同様にBに上がった。 ・1学期と同様に教頭先生が国際科の授業の様子を定期的にホームページで発信したことで、保護者・地域の国際科に対する意識・理解の向上を図ることができた。3学期は国際交流会もあるので学年便りで是非発信をお願いしたい。